MACF 礼拝説教要旨
2022年8月7日

「解散させるか、それとも・・」
ルカによる福音書9章12節〜17節
9:12 日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。
「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」
9:13 しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買いに行かないかぎり。」
9:14 というのは、男が五千人ほどいたからである。イエスは弟子たちに、「人々を五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい」と言われた。
9:15 弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。
9:16 すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、
それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。
9:17 すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、
十二籠もあった。
＊＊＊＊＊
大勢の人たちがイエス様の周りに集まり、それこそ大群衆になっていきました。
弟子たちはイエス様のことも心配し、人々のことも気に留めて
「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」と語ります。
人間的には常識的な判断だと思います。
ところがイエスさまは不思議なことを弟子たちに伝えました。
9:13 しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。

弟子たちには心の準備もなかったと思いますが、イエス様が天にお帰りになったあと群衆への祝福の分配は弟子たちによってなされることになります。
ですから、ここでイエス様が「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と語った意味はとても重要でした。
弟子たちは気づく必要がありました。
弟子たちには「大事な役目」があり、それは「飢えている人、困っている人、傷んでいる人に対する神様の祝福の提供である」ということに。

このお話は5つのパンと2匹の魚で5千人を養ったという奇跡として書かれていますが、私達が心に留めるべきメッセージは、奇跡そのものよりもイエス様から弟子たちに語られた「指示」にあるように思います。

１）あなたがたが
5千人を前にして、「あなたがたで」と言われた12人の弟子たちの困惑はどれほどだったでしょう。

でも、同時に、こんなに大勢の人たちのために役立つことができるなら、なんと光栄なことだろう、という思いも心に育ったと思います。
一体何が始まるのか、わかっていない弟子たちですが、イエス様には、「私達としては解散させることは一番の手段だと思います」ということは伝えてあるわけですから、イエス様はそれを承知の上で「あなたがたで食べ物を与えなさい」と語ったわけです。
つまり、イエスさまの心の中にはすでに、5千人のための「なにか」が用意されていたのです。そして、その祝福の分配の喜びを弟子たちに味合わせようと思っていたと思います。

２）50人くらいに
イエスさまは群衆を50人くらいの集団に分けて座らせるよう指示しました。
5000人全体では、個々人の顔はわかりませんが、50人程度に集まると挨拶もできるし、知っている人もその中にはいるかもしれません、会話も生まれ、なんらかの分かち合いが生まれます。
神様からのさまざまな祝福を分かち合うのに、100人、1000人と大勢集めて壇上から何かを提供するという形もあるのかもしれませんが、イエス様は、ここで、あえて50人くらいの集団に分けたという方法は意味深いものがあると思います。
誰に渡したのか、受け取っていない人はいないか、確認できるからです。
つまり、その程度の人数であれば、各自が隣の人に配慮すれば「無視されたり、抜け落ちたり」することがないのです。

３）5つのパンと2匹の魚を祝福し、弟子たちを介して人々に
イエスさまは弟子たちがもっていた僅かな食料を受け取り、感謝をささげ、弟子たちを介して人々に手渡すように指示されました。
5千人の胃袋を満たすという作業はすごいことですが、でも、それも「ひとりずつ」「個別に」手渡されて、彼らに喜びと安心がもたらされました。
弟子たちはイエス様から食べ物を受け取り、それを、人々のところに運び手渡しました。

わたしは、この奇跡の物語を何度か読み返しながら、自分の今までの働きを振り返っていました。
わたしは25歳で栃木県鹿沼市にある福音伝道教団鹿沼キリスト教会の伝道師、牧師として働き始め、その時から、ほぼ毎週礼拝の説教をしています。この3年はコロナ禍の中で
直接皆さんにはお会いしていませんが、説教は継続しています。

鹿沼教会での5年間の牧会のあと、お茶の水クリスチャンセンターで伝道部主事として活動しフライデーナイトという集会で説教し、キャンプでの説教や神学講座などもやりながら10年間働きました。その間、並行して7年間ほど韓国の方々が集まっている東京福音教会という教会で協力牧師として働き、MACFを開始し、すでに30年以上になります。

振り返ってみると、わたしはイエス様

から「なにか」を受け取り、それらを分かち合ってきました。やっていることは、ほとんど、それだけです。
埼玉県伊奈町にある木村クリニックでもすでに20年近くカウンセリングの働きをさせていただいていますが、その作業も「分かち合い」に類するものだと感じています。

それに加えて、わたしは大勢の人たちと一緒に食べてきました。
鹿沼教会ではよくカレーが礼拝後振る舞われました。
韓国教会ではキムチとご飯とお味噌汁とコーヒーが定番でした。
フライデーナイトでは、おりあるごとにケンタッキーフライドチキンを買ってきて参加者と一緒に食べました。
MACFも最初のころはよく、ありあわせのものを持ち寄るポットラックが礼拝後なされていました。

つまり、何を言いたいのかというと、わたしのような小さな存在でも振り返ってみると大勢の人たちへの「イエス様からの祝福の手渡し」をさせていただけるのだと、感動したのです。その数はすごいことになっているからです。

以前、スエーデンの歌手レーナ・マリアさんのコンサートの司会と通訳の依頼を受けて全国各地を回りましたが、その際、各地でコンサート前に楽屋に訪問客がありました。
それらの方々はほとんどが「学生時代お茶の水のフライデーナイトでお世話になった○○です。」という挨拶がありました。「その節はお世話になりました、今日は実はレーナマリアさんのサインを頂きたくて、関根先生にお願いに来たのです」というケースばかりでしたが。それでもその人数の多さと各地方に散っている人たちの多さに驚かされました。

弟子たちは人数を考え、その数に圧倒されて「解散させましょう、各自で、自己責任でなにか食べ物を探させましょう」とイエス様に語りましたが、
イエス様の考えは違いました。
弟子たち自身が、群衆のためにできることがあるということに気づく必要がありました。
でも、それは「群衆のため」という見方ではなく、「50人くらい」という集まりと捉えてそこにいる「人たち」への役目があるということに気づいたのです。
「日本にリバイバルを」というスローガンを時々目にします。
でも、それは大群衆を集めるという形ではなく、イエス様を信じている人たちが手の届くところで一緒に食べ、一緒に語り、一緒に喜びを分かち合う」中で進んでいくのだと思います。
＊＊

人が一生の間に何人くらいの人と出会うのかということについて、
人生80年と考えて、立てられた通説があります。
人生でなんらかの接点を持つ人は、30,000人
学校や仕事を通じて近い関係になる人は、3,000人

親しい会話ができる人は、300人
友達と呼べる人は、30人
親友と呼べる人は、3人

一人ひとりが、親しい会話のできる30人と分かち合いを深めて行けたら、
あっという間に5000人を超える広がりになります。
イエスさまは、弟子たちに対して「あなたの持っているもので、あなたの手で
分かち合いなさい」と教えたのです。
結果については「神の奇跡」を見ることになるというのです。
＊＊＊

今朝の聖書の箇所は、あなたに何を語りかけていますか。
どんなことを感じますか？

9:12 日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。
「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、
食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」
9:13 しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」
彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、
このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買いに行かないかぎり。」
9:14 というのは、男が五千人ほどいたからである。
イエスは弟子たちに、「人々を五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい」と言われた。
9:15 弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。
9:16 すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、
それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。
9:17 すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、
十二籠もあった。
＊＊＊

MACF礼拝映像はこちらです。
https://youtu.be/iFAJ2tB_cww